

キャベツ根こぶ病に対するおとり作物としてのエンバク（ヘイオーツ）の効果と利用法

アブラナ科野菜の根こぶ病はエンバクにも根毛感染することを検鏡により確認した。また、エンバクには根こぶ病菌密度を減少させる効果があり、おとり作物として有効であることを明らかにした。



根こぶ病（*Plasmodiophora brassicae* Woronin）

アブラナ科野菜を生産する上での大きな阻害要因である。根がこぶ状に肥大し、水分や養分を吸収できず、発育が停滞し枯死に至る。

病原菌は土壤中で長期間生存する。pH 6.0以下の酸性土壌や低湿地、排水不良の畑で多発しやすい。

写真1 根こぶ病に罹病したキャベツの根部

表1 根こぶ病菌のエンバクにおける根毛感染状況

	調査根毛数		根毛感染率（％）	
	播種10日後	播種14日後	播種10日後	播種14日後
エンバク	600	600	66.5%	77.3%
C Rダイコン	600	600	89.5%	100.0%



写真2 根こぶ病菌に感染したエンバクの根毛
（図中○内が根毛中の根こぶ病菌遊走子嚢）

10⁶個/g生土の根こぶ病菌を接種した土壌にエンバクを播種したところ、無処理区（何も播種しなかった区）に比較して大きく菌密度が減少し、播種後50日後には、顕微鏡による検出限界以下となった。

